



組合員の意思反映に向けて

第2回地区本部運営委員会代表者会議開く

当JAは2月28日、令和6年度第2回地区本部運営委員会代表者会議を沼津市で開きました。

各地区本部運営委員会の会長・副会長、JA役職員57人が出席。各地区から寄せられた意見への各事業の対応や、これまでの意見に対する取り組みの進捗状況などを検討しました。今後も組合員の皆さまの声をJA事業に反映し、共に取り組んでまいります。



事業運営体制についてなど活発な意見交換



各市場でトップセールス展開

特産物を市場関係者にPR

当JAは1月31日、東京都大田市場で西浦みかん寿太郎のトップセールスを行いました。頼重秀一沼津市長や生産者、高木力常務らが参加。西浦みかん大使高海千歌ちゃんの声優を務める伊波杏樹さんも参加し、新出荷箱をお披露目しました。

2月18日には、三島青果で冬季農産物PRイベントを実施。市場関係者に特産物を紹介し、販売促進と売立単価の維持向上を呼びかけました。



声優の伊波さん(中央)や頼重市長、高木常務らがPR
※本取り組みは「JA共済 地域・農業活性化促進助成金」を活用しています



しずおか食セレクションに認定

御殿場地区の干し芋とミシマガチトマトが認定

令和6年度しずおか食セレクションの認定式が2月12日に静岡市で開かれ、御殿場地区の「富士山のふところ育ち 干し芋」と三島函南地区の「ミシマガチトマト」が新たに認定されました。

干し芋は黄金色のしっとり半生タイプで、上品な甘さと柔らかさが特長。ミシマガチトマトは、機能的表示食品(機能性関与成分GABA)を取得し、ストレスや疲労感の緩和が期待されます。



認定式会場で商品を紹介する生産者の佐藤光さん(中央左)

ウェブメディア活用で優秀賞

令和6年度静岡県JA広報コンクール表彰式

令和6年度静岡県JA広報コンクールで、当JAがウェブメディア活用で優秀賞を受賞しました。令和4年度に続き2度目の受賞です。2月6日に静岡市で表彰式が行われ、中央会の和田康専務から藤沼和明専務に表彰状が手渡されました。

同部門は、ホームページや動画などのウェブ媒体を先進的に活用したJAを表彰。審査員から「見せ方の工夫が施されている」と評価されました。



表彰状を受け取る藤沼専務(左)



JAふじ伊豆はSDGs「1〜17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

管内の生産者が品評会で上位入賞

花きや柑橘品評会などで多数入賞

1月から2月にかけて、関東東海・県の品評会などが行われ、管内の生産者の方々が多数入賞されました。各賞の上位入賞者は次の皆さまです。

■第73回関東東海花の展覧会

金賞：田村 丞(伊豆太陽)・田村 雄太(伊豆太陽)
渡邊 憲治(富士)・磯 清彦(伊豆太陽)
銀賞：山田 弘志(伊豆太陽)・末永 達之(伊豆太陽)
八代 善平(伊豆太陽)・山田 和司(伊豆太陽)
遠藤 邦彦(富士)・渡邊 精一(伊豆太陽)

■第40回静岡県花の展覧会

金賞・静岡県知事賞：
田村 俊宣(伊豆太陽)・遠藤 美行(伊豆の国)
金賞：木村 富男(伊豆の国)・磯 英夫(伊豆太陽)
持田 忠継(なんすん)・田村 利昌(伊豆太陽)
茅田 礼(伊豆太陽)・中村 和明(なんすん)
銀賞：山田 巧(伊豆太陽)・田村 丞(伊豆太陽)
田村 俊宣(伊豆太陽)・田村 安雄(伊豆太陽)

敬称略、()かっこ内は地区名

■第59回静岡県貯蔵ミカン品評会

優秀賞・農林水産大臣賞：
石倉 健(なんすん)
優秀賞：渡邊 善行(なんすん)
優等賞：土屋 明浩(伊豆太陽)

■第45回静岡県中晩生柑橘品評会

優秀賞：田村 政一(伊豆太陽)
土屋 明浩(伊豆太陽)

■令和6年度全国優良経営体表彰

経営改善部門・農林水産省経営局長賞：
高木 洋(三島函南)



関東東海花の展覧会で金賞5席を受賞した田村丞さんのカーネーション

マスコミ懇話会でふじ伊豆PR

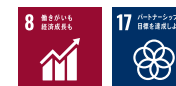
御殿場地区と三島函南地区を視察

JA静岡中央会主催のマスコミ懇話会が2月4日、JAふじ伊豆で開かれ、静岡支局長会の新聞・テレビ各社の支局長、連合会役員、当JAから梶穀組合長をはじめ役職員が出席しました。

御殿場地区のサツマイモ加工品生産、物流プラットフォームによるファーマーズの販売強化、三島函南地区の先端技術を活用したトマト生産を紹介。参加者は地域農業やJAへの理解を深めました。



サツマイモの加工施設を視察



農産物の価格設定に理解を

生産者と関東農政局が意見交換

当JAは2月13日、伊豆の国果菜委員会と関東農政局との意見交換会を伊豆の国市で開きました。ミニトマトのほ場を視察した後、適正価格形成へ向けた取り組みについて意見交換を行いました。

近年上昇している農業生産資材コストを農産物の販売価格に適正に反映する必要性を訴え、今後の農林水産省の「適正な価格形成に関する協議会」に期待する意見が多く聞かれました。



産地の情勢などを説明する生産者(右)



ワサビ苗の安定供給目指して

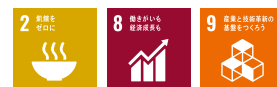
ワサビ苗生産者とワサビ生産者が交流

富士わさび苗生産部会は、年間約40万本の苗を伊豆の国地区と伊豆太陽地区のワサビ生産者に出荷しています。

1月に富士市で開催したワサビ苗の目ざろえ会には出荷先のワサビ生産者も参加。出荷基準の確認や苗生産現場の見学を通して部会員らと意見を交わし、苗の安定供給とJAふじ伊豆全体でのワサビの生産拡大に向けて意思統一を図りました。



ワサビ生産者(右)と苗を確認する部会員



「西浦みかん」ドローン試験

農薬散布実証試験の初年度結果報告

西浦みかん営農経済センターは2月27日、県・沼津市・KDDI・全農・経済連と連携し令和6年から始めた「西浦みかん」での自動航行ドローンによる農薬散布試験の初年度結果を関係者へ報告しました。

作業時間は手散布の1/20程度に短縮できることが確認できました。防除は散布不良や樹の密植により病気が発生したため、本年度は樹形や飛行方法を変更し、技術確立に向けた調査を行います。



ドローン農薬散布試験を行ったミカンの品質調査



販売拡大に向け意見交換

青壮年部がワサビの勉強会

青壮年部伊豆の国地区本部南支部山葵専門部会は、ワサビの勉強会を定期的に開催し、知識向上を図っています。

1月には販売・流通に関する勉強会を開き、市場出荷の流れや販売金額の推移などをJAの販売担当者が説明。その後、販売拡大に向けた意見交換を行い、輸出に対応する出荷規格の検討や販売状況のデジタル化など多数の意見が挙がりました。



部員約20人が参加し職員も交えて意見交換



高糖度柑橘の安定生産へ

あぐりチャレンジ事業活用し試験栽培

あいら伊豆柑橘部会はJAの助成事業「あぐりチャレンジ事業」を活用し、1月下旬からシールディング・マルチ試験栽培を始めています。

同栽培は園地に専用シートの埋設に加え灌水チューブを敷設するマルチ栽培で、マルチ外へ根が伸びることを防ぎます。これにより適度な乾燥ストレスを与えて糖度向上が期待でき、高品質・高糖度柑橘の安定生産を目指します。



専用シートの埋設作業



水稲の育苗・移植作業が不要に

乾田直播栽培の試験導入に向け説明会

JAと御殿場市、県東部農林事務所などで組織する「御殿場市みどりの農業推進協議会」は2月12日、本年度試験導入する水稲V溝乾田直播栽培の説明会を御殿場地区本部で行いました。

同栽培は育苗・移植作業が不要で、労力が大幅に削減できます。同協議会は、これまでアイガモロボや給水ゲートの導入試験を行うなど、環境負荷を軽減した先進的なモデル事業を展開しています。



説明会後に導入試験を行う水田を調査



レンタル農機に2機追加導入

組合員の生産支援と耕作放棄地対策に

富士宮営農経済センターは、JA共済「地域・農業活性化促進助成金」を活用し、自走式草刈機「ハンマーナイフモア」と粉砕機「チッパー」を新たに導入しました。昨年度からレンタル農機として同地区の組合員に貸し出しています。

レンタル農機の充実により、農家組合員の作業の効率化や負担軽減を図り、耕作放棄地の発生防止や農地の有効活用を推進しています。



導入したハンマーナイフモア(左)とチッパー(右)



七草文化継承と安定生産目指して

全国から春の七草生産者が集結

三島市で「第9回全国春の七草生産者交流会」が開かれ、三島七草委員会をはじめ全国主要13産地から生産者約50人が集まりました。七草の伝統文化継承や安定生産に向けて意見交換が行われました。

三島七草委員会は、農福連携による人材確保や地域福祉への貢献、学校給食への無償提供などの取り組みを説明。同委員会の高木洋委員長は「産地間で協力し伝統を守っていきたい」とあいさつしました。



主催者としてあいさつする高木委員長



小・中学校にジャガイモ種芋寄贈

1支店1協同活動で食農教育

JAは1支店1協同活動を通じて地域との交流を図っています。下田支店では2月27日、地域交流と食農教育を目的に、下田小学校と下田中学校の特別支援学級にジャガイモの種芋を贈りました。

支店職員と支店運営委員が出前授業で同校に出向き栽培の講義を行った他、児童らと一緒に種芋を植えました。同支店では6月の収穫まで栽培管理のサポートも行っていきます。



ジャガイモの種芋を植える児童